

2019年10月25日

大阪産業大学附属中学校

## 2018年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属中学校  
学校関係者評価委員会

10月25日に学校関係者評価委員会（8名全員出席）を開き、会議冒頭にホームページに掲載している体育祭、文化発表会の動画を視聴し、その後、学校が公表する学校評価に基づいて大阪産業大学附属中学校の教育について議論しました。その概要を報告します。

### 1. 2018年度 学校評価について

学校からの授業アンケート結果の分析報告、学校評価についての報告に基づいて、議論がおこなわれました。学校からの「少人数ならではの面倒見のよい教育の実践例とその利点」の報告に、委員からは中学の少人数教育のメリットについて理解が示されるとともに、高校に進学すれば、少人数教育の行き届いた教育に慣れた生徒たちが、しっかりやっつけていけるか心配という意見がありました。

### 2. 学校教育への提言

#### A. 保護者代表から

高校を決定するとき、附属高校だけでなく他校も選択肢の一つに考えたが、子どものことをよく知っている中学の教員が同じ敷地内にいることで、安心して学校に通わせることができる附属高校への進学を決定したという意見がありました。また、在校生が少なくなっていく中で、わが子が卒業したあとも在校生のことを気にかけている保護者OBも多いという意見がありました。

#### B. 保護者OB代表から

登下校の生徒のマナーを徹底させるために、校内だけでなく、定期的に校外でも指導はしていただきたいという意見がありました。

#### C. 同窓生代表から

近年、一部の青少年に自分のことを最優先するような風潮がうかがえるが、学校としてどのように教育されているかという質問に、学校からは教員が社会規範をしっかり守るという姿勢を生徒に見せていくのが大切なのではないかと回答がありました。

#### D. 地域住民代表から

毎年のように国内で大きな災害が起こっている中、高齢の方が多いこの地域では、災害が発生した場合、学校に避難所としての役割を期待しているとの意見がありました。